

上の巻 近江戦国絵巻

室町幕府の失墜そして、信長の台頭



近江八幡市
近江戦国絵巻

京極氏と六角氏が 応仁の乱で対決

戦国時代の始まりともされる「応仁の乱」は、近江を二分することに なりました。北近江の守護だった京極持清(ぎよともきよ)は東軍に、南近江の守護だった六角高頼(ろつかたかよ)は西軍に属し、観音寺城①(近江八幡市)などで対決。乱は京極氏が属する東軍の勝利に終わりましたが、京極氏の当主・持清の死去を機に、六角氏が勢力を 盛り返すことになりました。



近江八幡市・守山市
近江戦国絵巻

京を追われた将軍が 次々と近江に逃亡

栗太郡鈎(栗東市)で病没した9代将軍・足利義尚の後も、室町 将軍はたびたび近江へ滞在しています。11代・義隆(よしゆき)、12代・義晴(よしはる)、13代・義輝(よしてる)、15代・義 昭(よしあき)は、後継者争いや内乱などの難を逃れて、京か ら逃亡。義晴が将軍御所(坂の幕府)を置いた桑実寺⑤(くわ のみでら/近江八幡市)、義昭が滞在した矢島⑥(やじま/ 守山市)など、近江には将軍ゆかりの地が多くあります。



長浜市
近江戦国絵巻

浅井氏が台頭し、 湖北を支配

信長が桶狭間(おけはさま)の戦いで勝利 した同年、近江では浅井長政(ながまさ) が16歳で家督を継ぎました。浅井氏は京 極氏の家臣から独立したのが成り立ちで、 初代・亮政(すけまさ)は、琵琶湖と湖北3郡 を一望でき、小谷山(おだに)にやま/長浜市) に小谷城⑦を築城しました。3代・長政(なが まさ)は後に、織田信長の妹・お市と政略結 婚。長政とお市には、悲しい運命が待ち受け ることになりました。



近江八幡市
近江戦国絵巻

信長が近江で将軍を迎え、 いざ上洛

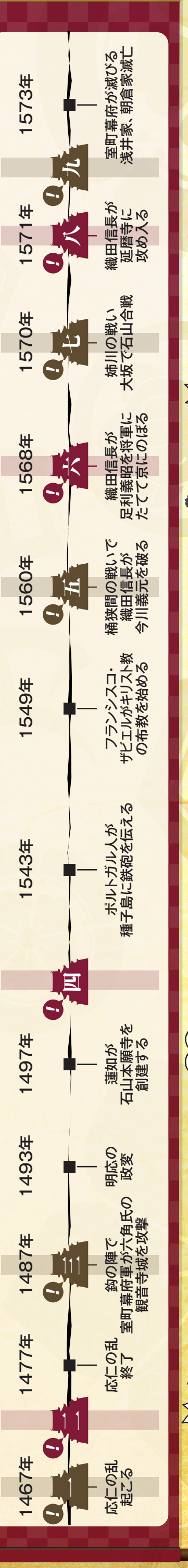
桶狭間の戦いの後、美濃国(みのの) 長はさらに軍を進め、六角氏を攻 め落として南近江を制圧。後継者 争いで身の危険を感じ、越前へ と逃れていた足利義昭を桑実寺 (近江八幡市)で迎え、坂本(大 津市)を経由して京都へ向かい ます。上洛を果たした信長は、 足利義昭を室町幕府15代将 軍にたてて、政治の実権を握 りました。



長浜市
近江戦国絵巻

お市の方の悲劇

織田氏と同盟関係にあった浅井氏は、越 前(福井県)の朝倉氏とも、親密な関係を 築いていました。信長と朝倉氏が対立 したことで板挟みにあった浅井長政は、朝 倉氏に加勢。湖北を東西に横切る姉川を 挟んで、浅井・朝倉軍と、織田・徳川軍の合 戦(姉川の戦い⑧)へと発展しました。戦い は織田・徳川軍が勝利。1573年に浅井氏 は滅亡し、長政の妻・お市は、兄である信長 によって、夫を失うことになったのです。



大津市
近江戦国絵巻

力をつけた百姓による 「惣」が発達

物資が行き交う交通の要衝であった近江の各地では百姓が力を つけ、「惣」と呼ばれる共同組織が発達。惣は時に自らの権利や支 配地をめぐって、守護大名などと対立しました。1468年に堅田② (かたた/大津市)で起きた「堅田大貫(おおせめ)」では、将軍・足 利義政(よしまさ)が堅田を攻撃。家を焼かれた堅田の人々は琵琶 湖の沖島③(近江八幡市)へ避難しました。



栗東市
近江戦国絵巻

鈎の陣で将軍が 近江に滞在。 室町幕府の中枢に

南近江の六角高頼は、幕府奉公衆が所有していた荘園を奪う などして勢力を拡大。将軍・足利義尚(よしひさ)は六角氏討伐 に動き、幕府軍は栗太郡鈎(栗東市)に陣を構えました(鈎の陣 ④)。この出陣には、将軍直轄の奉公衆や幕府官僚の奉公人も 伴っており、義尚が陣中で病没するまでの約1年半、実質的な 幕府の中枢が近江にあったことになりました。



大津市
近江戦国絵巻

武家と山門の 対立が激化

天下統一をめざした信長は僧侶とも激しく争い、志賀の陣で浅井・朝倉 氏に協力した比叡山延暦寺⑨(ひえいざんえんりやくじ/大津市)に攻め 入りました。また、同様に大きな勢力だった本願寺の一向宗(いっそうしゆ /浄土真宗)門徒とも戦いを繰り返し、1570年に始まった石山合戦で は、近江の一向宗門徒とも戦っています。



大津市
近江戦国絵巻

明智光秀、 琵琶湖岸に坂本城を築城

信長が比叡山延暦寺に攻め入った直後のこと、信長の家 臣で、その手腕を高く評価されていた明智光秀(あけちみつ ひとで)は滋賀郡(大津市北部)の支配を命ぜられた。光秀は坂本(大津市)の琵琶湖岸に坂本城⑩を築 いた。城内に直接船を引き入れることができる構造の城だ ったという記録が残されています。